



ш. \forall

 α

ш \forall

 α

ш

 \forall α

 \triangleleft

 \simeq

ш.

 \forall

 \simeq

 \forall \simeq

1

 \triangleleft α

ш. \triangleleft α

 \triangleleft 2

Τ

< α

T

MidoNet トラブルシューティング ガイド

2015,06-SNAPSHOT (2015-10-19 10:08 UTC) 製作著作 © 2015 Midokura SARL All rights reserved.

概要

MidoNetは、Infrastructure-as-a-Service (IaaS)のためのネットワーク仮想化ソフトウェアです。

これにより、ネットワークハードウェアとIaaSクラウドを切り離すことができ、ホストと物理ネット ワークの間に、インテリジェントなソフトウェア抽象レイヤーを作成することができます。

このドキュメントは、MidoNetやOpenStackのトラブルシューティングに関する有用な情報が含まれて います。



注意

この文書はドラフトです。それは、関連する情報が欠落しているか、テストされていな い情報が含まれていることができる。 ご自身の責任でそれを使用してください。



注記

援助を必要とする場合は、 MidoNetメーリングリストやチャット までご連絡ください。

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

DRAFT

DRAFT

I

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAF

1

DRAFT

1

DRAFT

1

DRAFT

I

DRAFT

I

目次

は	じめに	iν
	表記規則	i٧
1.	全体アプローチ	1
	アンダーレイネットワーク	1
	オーバーレイネットワーク	3
	トポロジーシュミレーション	5
	仮想トポロジー	5
2.	共通トピック	6
۷.		_
	MidoNet エージェント	6
	MidoNet API	6
	ボーダーゲートウェイプロトコル (BGP)	6
	ZooKeeper	8
	VM の相互接続	8
3.	ツールとコマンド	10
	midonet-cli	10
	mm-dpctl	10
	mm-trace	10
	ip	11
4		12
٦.	Cassandra	12
		12
	MidoNet Agent	
	MidoNet API	12
	Quagga (BGPD)	12
	ZooKeeper	12
5.	プロセス	14

Ι

 \triangleleft \simeq

RA

1

 \triangleleft

 α

1

 \triangleleft

 \simeq

ш. Ø \simeq

Ø \simeq

1

느 \triangleleft α

1

<u>.</u> \triangleleft α

1

 \forall DR/

Τ

 \forall α

Τ

はじめに

表記規則

MidoNet のドキュメントは、いくつかの植字の表記方法を採用しています。

注意

注意には以下の種類があります。



注記

簡単なヒントや備忘録です。



重要

続行する前に注意する必要があるものです。



警告

データ損失やセキュリティ問題のリスクに関する致命的な情報です。

コマンドプロンプト

\$ プロンプト

root ユーザーを含むすべてのユーザーが、\$プロンプトから始まるコマンドを実行 できます。

プロンプト

root ユーザーは、# プロンプトから始まるコマンドを実行する必要があります。利 用可能ならば、 これらを実行するために、sudo コマンドを使用できます。

 \forall α

1

 \forall α

 \forall α

 \forall

 α

Ø \simeq

 \forall 2

 α

1

 \triangleleft

 α

ш \triangleleft

 α

Τ

 \simeq

Τ

第1章 全体アプローチ

目次

アンダーレイネットワーク	1
オーバーレイネットワーク	
トポロジーシュミレーション	5
仮相トポロジー	5

MidoNetの環境でトラブルシューティングをする時は、複数のレイヤーをチェックす る必要があります。

- アンダーレイネットワーク
- オーバーレイネットワーク
- 仮想ネットワークトポロジーシュミレーション
- 仮想ネットワークトポロジー

レイヤー	コンポーネント
仮想ネットワークトポロジー	Neutron, MidoNet NSDB
仮想ネットワークトポロジーシュミレーション	MidoNet エージェント
オーバーレイネットワ	トンネル、データパス
アンダーレイネットワー	物理環境, オペレーティングシステム

潜在的な問題を避けるために、これらのレイヤーはボトムからトップにかけてチェッ クしてください。

アンダーレイネットワーク

アンダーレイネットワーク、つまり物理ネットワークは、接続に関する問題があった 時に一番最初に確認するポイントです。

- ・ ハードウェア / ケーブル
- ・ルーティング
- ・ファイヤーウォール
- アクセスコントロール
- ・リナックスカーネル / オープン vSwitch
- ・ 時間の同期化

ハードウェア/ ケーブル

ハードウェアが正常に機能しているか確認してください。

1. 物理リンクは確立されていますか?

ethtool eth0 Settings for eth0:

< α

Τ

[...]

Link detected: yes

2. インターフェースは立ち上がっていますか?

ip link

[...]

2: eth0: <BROADCAST, MULTICAST, UP, LOWER UP> mtu 1500 qdisc mq state UP mode DEFAULT group default qlen 1000

link/ether aa:bb:cc:dd:ee:ff brd ff:ff:ff:ff:ff

ルーティング

ルーティングが適切に設定されているか確認してください。そして、ping コマンド を使ってホスト間の接続性を確認してください。

netstat -nr

Destination Gateway Flags MSS Window irtt Iface Genmask 0.0.0.0 192.168.0.1 0.0.0.0 0 eth0 UG 0 0 192.168.0.0 0.0.0.0 255, 255, 255, 0 U eth0

in route

default via 192.168.0.1 dev eth0 proto static

192.168.0.0/24 dev eth0 proto kernel scope link src 192.168.96.100 metric 1

ファイヤーウォール

ファイヤーウォールが必要なプロトコル、ホスト、ポートをブロックしていないか確 認してください。

もし確信の無い場合は、ファイヤーウォールを解除して、接続に関する問題が残って いないか検証してください。

iptables -L

Access Control

SELinux もしくは AppArmorなどのアクセスコントロールシステムが、必要な機能を ブロックしていないかを確認してください。

もし確信が無い場合は、ACLシステムを解除して、まだ問題があるかどうかを検証し てください。

Linuxカーネル / オープンvSwitch

オープンvSwitchカーネルモジュールがロードされていて、走っているカーネルの バージョンと合っているか確認してください。

modinfo openvswitch

filename: /lib/modules/kernel version/kernel/net/openvswitch/openvswitch.ko

license: GPL

description: Open vSwitch switching datapath

depends: libcrc32c, vxlan, gre

intree:

lsmod | grep openvswitch

openvswitch 70743 0

vxlan 37584 1 openvswitch 13808 1 openvswitch gre libcrc32c 12644 2 xfs, openvswitch

< α

1

 \forall α

1

 \forall 2

1

 \triangleleft

 \simeq

1

 \forall \simeq

 \forall

 \simeq

2

1

DRAI

1

ш DRA

1

T

時間の同期化

全てのノードにおいて、時間が同期しているか確認してください。

# ntpq -pn remote 	refid	st t	when	poll	reach	delay	offset	jitter
+157. 7. 235. 92 +122. 215. 240. 52	133. 243. 238. 164 9. 22. 27. 124 10. 84. 87. 146 133. 243. 238. 164 131. 188. 3. 220	3 u 2 u	73 115 45	128 128 128	377 377 377	4. 239 4. 845 4. 326 4. 291 229. 564	2.713 5.069 14.744 5.400 4.604	6.608 4.802 8.498 4.462 6.896

正しいタイムゾーンが設定されているか確認ください。

date Thu Mar 26 13:24:34 JST 2015

オーバーレイネットワーク

オーバーレイネットワーク、つまり物理ネットワークは、接続に関する問題があった 時にまず一番最初にチェックするポイントです。

トンネルゾーン

MidoNetエージェントを走らせているホストが、トンネルゾーンに追加されていて、 稼働していることを確認してください。

```
# midonet-cli
midonet> list tunnel-zone
tzone tzone0 name tz type vxlan
midonet> tunnel-zone tzone0 list member
zone tzone0 host host0 address 192.168.0.1
zone tzone0 host host1 address 192.168.0.2
zone tzone0 host host2 address 192.168.0.3
zone tzone0 host host3 address 192,168,0,4
midonet> list host
host host0 name host-a alive true
host host1 name host-b alive true
host host2 name host-c alive true
host host3 name host-d alive true
```

パケットがトンネルインターフェース上を伝送しているかどうかをチェックして、 エラーが無いこと、パケットがドロップしていないことを確認してください。 GRE プロトコルの場合は、`tngre-overlay`を確認してください。VXLANプロトコルの場合 は、`tnvxlan-overlay`を確認してください。

```
# mm-dpctl --show-dp midonet | grep overlay
Port #1 "tngre-overlay" Gre Stats{rxPackets=508157678, txPackets=398704120,
 rxBytes=291245619484, txBytes=318474308439, rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0,
Port #2 "tnvxlan-overlay" VXLan Stats{rxPackets=0, txPackets=0, rxBytes=0, txBytes=0,
rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
```

MidoNet データパス

MidoNetデータパスを確認してください。

mm-dpctl --show-dp midonet

Τ

< α

T

```
グ ガイド
                   Datapath name : midonet
                   Datapath index: 11
ш.
                   Datapath Stats:
\triangleleft
\alpha
                    Flows :1340066
                     Hits :1111802509
                    Lost :0
1
                     Misses:17302163
                   Port #0 "midonet" Internal Stats{rxPackets=0, txPackets=0, rxBytes=0, txBytes=0,
                   rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
Port #1 "tngre-overlay" Gre Stats{rxPackets=508157678, txPackets=398704120,
\forall
                    rxBytes=291245619484, txBytes=318474308439, rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0,
\alpha
                    txDropped=0}
                   Port #2 "tnvxlan-overlay" VXLan Stats{rxPackets=0, txPackets=0, rxBytes=0, txBytes=0,
rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
                   Port #3 "tnvxlan-vtep" VXLan Stats{rxPackets=0, txPackets=0, rxBytes=0, txBytes=0,
                    rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
                   Port #4 "tapa0164c42-dd" NetDev Stats{rxPackets=389426272, txPackets=342761506,
\triangleleft
                    rxBytes=1128206548338, txBytes=241007949600, rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0,
\alpha
txDropped=0}
                   Port #5 "tap19ccc069-f1" NetDev Stats{rxPackets=0, txPackets=54640, rxBytes=0,
txBytes=2347034, rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
                   Port #6 "tape3055fc6-cc" NetDev Stats{rxPackets=21375, txPackets=42911, rxBytes=3573207,
                   txBytes=4607633, rxErrors=0, txErrors=0, rxDropped=0, txDropped=0}
\forall
                   # mm-dpctl --dump-dp midonet
\Delta
1340149 flows
                     Flow:
                       match keys:
                         Tunnel{tun id=4360, ipv4 src=10.11.0.16, ipv4 dst=10.11.0.15, tun flag=0,
                    ipv4 tos=0, ipv4 ttl=-3}
                         InPort {1}
\forall
                         Ethernet{src=02:13:38:97:08:f3, dst=fa:16:3f:92:53:60}
\alpha
                         EtherType {0x800}
                         KeyIPv4{src=8.8.8.8, dst=10.17.3.14, proto=17, tos=0, ttl=55, frag=0}
UDP\{src=53, dst=56975\}
                       actions:
                         Output {port=21}
                   [...]
\forall
\alpha
                   # mm-ctl --list-hosts
                   Host: id=17ef018f-de8b-431b-89f0-b5472f176769
name=hostname
                     isAlive=true
                     addresses:
                     vport-host-if-bindings:
 < 
\alpha
                       VirtualPortMapping{virtualPortId=ac0c2557-9fa0-4009-9e18-dc62ea65052a,
                    localDeviceName='tapac0c2557-9f'}
                       VirtualPortMapping{virtualPortId=c37d8bf2-d008-464e-a688-0627f2da342f,
localDeviceName='f58b0880_MN_dp'}
                       VirtualPortMapping{virtualPortId=7aa08012-d06c-4c78-aee8-1fff7c063fed,
                    localDeviceName='tap7aa08012-d0'}
بيا
                       VirtualPortMapping{virtualPortId=5aa6a752-57f2-4749-b160-9e632e0a16bb,
 < 

\alpha

                    localDeviceName='f58b0880 MN dp'}
                   [...]
MTU
ш
                   アンダーレイネットワークのフラグメンテーションを避けるために、VMインスタンス
\triangleleft

\alpha

                   のMTUは、トンネルプロトコルのオーバーヘッドに対応している必要があります。
```

この調整されたMTUは、DHCPを通じて、MidoNetに酔って自動的にアドバタイズされま す。しかし、これは、VMで使われているオペレーティングシステムによっては、適応 されない場合があります。

ш. \forall α

1

 \triangleleft

 α

 \forall α

 \forall \simeq

ш Ø \simeq

ш.

 \forall α

ш.

 \triangleleft α

1

ш. \triangleleft α

1

Τ

< α

Τ

VMのMTUはアンダーレイのMTUに基づいて設定されていることを確認ください。

Underlay MTU	Tunnel Protocol	Protocol Overhead	VM's MTU
1500 bytes	VxLAN	50 bytes	1450 bytes
1500 bytes	GRE	46 bytes	1455 bytes
9000 bytes	VxLAN	50 bytes	8950 bytes
9000 bytes	GRE	46 bytes	8955 bytes

トポロジーシュミレーション

トポロジーシュミレーションは、ネットワークステートデータベース(NSDB)から仮 想トポロジーデータを取り出すMidoNetエージェント(Midolman)によって実行されま

/var/log/midolman.log ファイルを確認して、エラーか警告がないかを確認してくだ さい。

NSDBに対する接続が正常に動いているか確認してください。NSDBは二つのコンポーネ ント、ZooKeeperとCassandraによって構成されています。

NSDBホストをピングしたり、適切なサービスポートにテルネットすることで、ネット ワークのアクセシビリティを手動で検証することができます。

Service	Port
ZooKeeper	2181
Cassandra	9042

仮想トポロジー

仮想トポロジーはNeutronデータベースとMidoNetのネットワークステートデータベー ス (NSDB)に格納されます。

以下は、確認する一般的なものです。

セキュリティーグループ

理想的なトラフィックパスを確立するために、Neutronセキュリティーグループは設 定されていますか?

プロトコル(ICMP, SSH, HTTPなど)と使われているポートに関する適切なルールが 存在しているかをチェックしてください。

Τ

ш. \forall α

1

 \forall α

1

 \forall α

1

 \triangleleft \simeq

 \forall \simeq

ш. \forall

 \simeq

 \triangleleft

 α

1

 \triangleleft

 α

1

ш DRA

T

< α

Τ

第2章 共通トピック

目次

MidoNet エージェント	6
MidoNet API	6
ボーダーゲートウェイプロトコル (BGP)	6
ZooKeeper	8
VM の相互接続	8

MidoNet エージェント

デバッギング

トラブルシューティングの期間に、mn-conf(1) ツールを通じて、ログレベルを増や すことができます。

ログレベルを以下の値に変更できます。 DEBUG, INFO, WARN, ERROR

現在設定されたレベルをチェックするため、下記のコマンドを実行して下さい。

```
$ mn-conf get agent.loggers.root
agent.loggers.root = INFO
```

レベルを増やすため、下記のコマンドを実行して下さい。

\$ echo "agent.loggers.root : DEBUG" | mn-conf set -t default

この変更を行うために、エージェントの再起動は必要ありません。

MidoNet API

デバッギング

トラブルシューティングの期間に、/usr/share/midonet-api/WEB-INF/classes/ logback.xml ファイルを通じて、ログレベルを増やすことができます。

これをするには、ルートのロガーレベルを以下の値に変更してください。 DEBUG, INFO, WARN, ERROR

```
<logger name="org.midonet.event" level="DEBUG">
   <appender-ref ref="EVENT-FILE"/>
</logger>
<root level="DEBUG">
   <appender-ref ref="STDOUT" />
   <appender-ref ref="LOG-FILE" />
```

この変更を行うために、Tomcatの再起動が必要です。

ボーダーゲートウェイプロトコル (BGP)

このセクションはBGPに関連する一般的なトピックをいくつかカバーしています。

ш.

< α

 \forall

 α

 \forall α

1

 \forall

 \simeq

 \forall \simeq

 \forall

 α

 \triangleleft α

1

ш

 \triangleleft

 α

1

 \triangleleft

 α

< α

T

BGPネームスペースを見つけてください。

```
# ip netns list
mbgpX ns
```

BGPネームスペースのインターフェースをみる。

ip netns exec <mbgpX_ns> ip link show

BGPピアがエンドにある場合でもリーチできることを確認ください。

ip netns exec <mbgpX_ns> ip neigh show

BGPピアリングにおけるスニッフ

ip netns exec <mbgpX ns> tcpdump -i <ns itf>

Quagga's VTYシェルを入力ください。

ip netns exec <mbgpX_ns> vtysh

QuaggaのVTYシェル中の既存の設定を見ます。

```
# show run
Building configuration...
Current configuration:
hostname bgpd
log file /var/log/quagga/bgpd.2609.log
password zebra_password
router bgp 65535
 bgp router-id 192.168.107.29
network 42.159.202.0/24
neighbor 192.168.107.30 remote-as 65534
neighbor 192.168.107.30 timers 5 15
neighbor 192.168.107.30 timers connect 10
line vty
end
```

QuaggaのVTYシェル中のBGPサマリーを見ます。

```
# show ip bgp summary
BGP router identifier 192.168.107.29, local AS number 65535
RIB entries 19, using 2128 bytes of memory
Peers 1, using 4560 bytes of memory
                    AS MsgRcvd MsgSent TblVer InQ OutQ Up/Down State/PfxRcd
192.168.107.30 4 65534
                         5512
                                 5523
                                             0
                                                  0
                                                       0 07:40:09
```

Quagga's VTYシェル中のBGPルーティング情報を見ます。

```
# show ip bgp
BGP table version is 0, local router ID is 192.168.107.29
Status codes: s suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal,
              r RIB-failure, S Stale, R Removed
Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete
                                          Metric LocPrf Weight Path
   Network
                      Next Hop
                                          0
*> 0.0.0.0
                      192.168.107.30
                                                        0 65534 ?
                      192.168.107.30
                                          0
                                                        0 65534 ?
*> 1.1.1.0/30
```

MidoNet トラブルシューティン 2015-10-19 10:08 UTC 2015.06-SNAPSHOT グ ガイド

```
32768 i
*> 42.159.202.0/24
                      0.0.0.0
*> 192.168.0.0
                      192.168.107.30
                                                        0 65534 ?
                                          0
*> 192.168.1.0
                      192.168.107.30
                                          0
                                                        0 65534 ?
                                                        0 65534 ?
*> 192.168.2.0
                      192.168.107.30
*> 192.168.49.0
                      192.168.107.30
                                          0
                                                        0 65534 ?
                                                        0 65534 ?
*> 192.168.107.4/30
                     192.168.107.30
                                          0
*> 192.168.107.12/30 192.168.107.30
                                          a
                                                        0 65534 ?
*> 192.168.107.20/30 192.168.107.30
                                          0
                                                        0 65534 ?
*> 192.168.107.28/30 192.168.107.30
                                                        0 65534 ?
Total number of prefixes 11
```

ZooKeeper

サーバーがノンエラーステートで走っていることを確認します。もしサーバーが走っ ている場合は、imokと返してきます。走っていない場合は、何の返りもありあせん。

```
$ echo ruok | nc zk-host 2181
```

パフォーマンスと接続しているクライアントの統計情報をリスト化します。

```
$ echo stat | nc zk-host 2181
```

ZooKeeperデータベースのコンテンツをプリティプリントのテキスト・ファイルにダ ンプします。

```
$ zkdump -z zk-host:2181 -d -p -o zkdump.txt
```

ZooKeeperデータベースのコンテンツをマシンが読み取り可能JSONファイルにダンプ します。

\$ zkdump -z zk-host:2181 -d -o zkdump.json

VM の相互接続

状況

VM1 が TCP トラフィックを VM2 に送信できません。 パケットがどこまで到達して から失われたかを特定する必要があります。

物理コンピューティングホストを特定する

どの物理コンピューティングホストに VM が配置されているかを調べるに は、Horizon に管理ユーザーとしてログインして、インスタンスページに移動しま

VM をリスト内で検索し、コンピューティングホスト、内部 IP、フローティング IP を書き留めておきます。

VM1: compute1, 192.168.0.1, 172.16.0.1

VM2: compute2, 192.168.0.2, 172.16.0.2

インターフェースを特定する

TAP インターフェース名は、文字列「tap」で始まり、VM のポート UUID の最初の 11 文字が続きます。

 \Box \triangleleft 1 ш. \triangleleft α \Box 1 ш. \forall α \forall α \forall \simeq 1 Ø \simeq 1

> Ø \simeq

> > 1

 α

1

. Ш \triangleleft α

1

 \triangleleft 2

I

 \forall α

Τ

VM のポート UUID を特定するには、Horizon で VM のネットワークに移動し、ポー トリストで VM の内部 IP を検索します。そこから、次の例のように TAP インター フェース名を作成します。

ポート UUID: 7aa08012-d06c-4c78-aee8-1fff7c063fed

TAP インターフェース: tap7aa08012-d0

インターフェースでトラフィックを検証する

コンピューティングホストの VM の TAP インターフェースで tcpdump を使用すれ ば、ゲストホストにログインせずに VM の仮想 NIC でトラフィックが確認されてい るかどうかを検証できます。

tcpdump -n -i tap7aa08012-d0

TAP インターフェースでパケットカウンターを監視します。

watch -d ip -s link show tap7aa08012-d0

ш. \forall α

1

 \forall α

I

 \forall

 α

 \forall

 \simeq

 \forall \simeq

I

 \forall

 α

ш.

 \triangleleft

 α

Ι

ш.

 \triangleleft α

ш \triangleleft

 α

Τ

< α

ī

第3章 ツールとコマンド

目次

midonet-cli	10
mm-dpctl	10
mm-trace	10
ip	11

このセクションは、便利なツールとコマンドに関する概要を提供します。

midonet-cli

midonet-cli コマンドは、MidoNet APIに接続し、python-midonet-client パッケー ジをインストールしているホスト上で走らせることができます。

mm-dpct l

mm-dpctl コマンドは、どのMidoNetエージェントでも走らせることができ、現在のフ ローなどデータパス情報を表示することができます。

利用可能なオプション:

```
$ mm-dpctl
usage: mm-dpctl
               新しいデータパスを追加
  --add-dp <arg>
  --delete-dp <arg> データパスを削除
  --dump-dp <arg>
               与えられたデータパスにインストールされている全てのフローを表示
  --list-dps
               インストールされているデータパスをリスト化
  --show-dp <arg>
               与えられたのデータパスに関連する情報を表示
  --timeout <arg>
               何秒でタイムアウトするかを特定。特定した時間内にプログラムが結果が
帰ってこない場合は、停止してエラーコードを戻します。
```

例題:

```
$ mm-dpctl --show-dp midonet # shows datapath and interfaces
$ mm-dpctl --dump-dp midonet # shows current flows
```

mm-trace

a mm-trace コマンドは、MidolManエージェントがある特定のトラフィックフローを キャプチャして、シュミレーションの各ステージのログを取ることができます。

この設定は、MidolMan再起動の際に、常に同じではありません。

アウトプットは /var/log/midolman/mm-trace.log ファイルに書き込まれます。

利用可能なオプション:

```
$ mm-trace --help
 -h, --host <arg> Host (default = localhost)
                JMX port (default = 7200)
 -p, --port <arg>
                  ヘルプメッセージを表示
Subcommand: add - トレーシングマッチのパケットを追加
```

ш. <

 α

1

ш

 \triangleleft α

Τ

ш < α

Τ

```
MidoNet トラブルシューティン
                                    2015-10-19 10:08 UTC
      グ ガイド
1
                                      デバグレベルでのログ
                -d, --debug
                                     TCP/UDP 送信先ポートをマッチ
                    --dst-port <arg>
ш.
                                      イーサータイプをマッチ
                   --ethertype <arg>
V
\alpha
                   --ip-dst <arg>
                                     送信先ipアドレスをマッチ
                   --ip-protocol <arg>
                                     ipプロトコルフィールドをマッチ
                   --ip-src <arg>
                                      ipソースアドレスをマッチ
1
                                      このトレースを無効化する前のマッチするパケット数
                -l, --limit <arg>
                                     送信先MACアドレスをマッチ
                   --mac-dst <arg>
                                     送信元MACアドレスをマッチ
                   --mac-src <arg>
ш.
                                     TCP/UDPソースポートをマッチ
                   --src-port <arg>
\forall
                                      トレースレベルでのログ
\alpha
                -t, --trace
--help
                                      ヘルプメッセージを表示
              Subcommand: remove - トレーシングマッチのパケットを除去
-d, --debug
                                     デバグレベルのログ
                                     TCP/UDP 送信先ポートをマッチ
                   --dst-port <arg>
                   --ethertype <arg>
                                      イーサータイプをマッチ
                   --ip-dst <arg>
                                     送信先ipアドレスをマッチ
\forall
                   --ip-protocol 〈arg〉 ipプロトコルフィールドをマッチ
\alpha
                   --ip-src <arg>
                                     ipソースアドレスをマッチ
                -l, --limit ⟨arg⟩
                                      このトレースを無効化する前のマッチするパケットの数
1
                   --mac-dst <arg>
                                     送信先MACアドレスをマッチ
                                      送信元MACアドレスをマッチ
                   --mac-src <arg>
                                     TCP/UDPソースポートをマッチ
                    --src-port <arg>
                                      トレースレベルでのログ
                -t, --trace
\forall
                                      ヘルプメッセージを表示
                   --help
\alpha
              Subcommand: flush - トレーシングがマッチしているリストをクリア
-D, --dead-only 期限切れのトレーサーのみをフラッシュ
--help
                              ヘルプメッセージを表示
              Subcommand: list - アクティブなトレーシングマッチをリスト化
                -L, --live-only アクティブなトレーサーのみをリスト化
ш.
                   --help
                              ヘルプメッセージを表示
\forall
\alpha
              Examples:
$ mm-trace list
              $ mm-trace add --debug --ip-dst 192.0.2.1
              $ mm-trace add --trace --ip-src 192.0.2.1 --dst-port 80
              $ mm-trace list
\forall
              tracer: --debug --ip-dst 192.0.2.1
\alpha
              tracer: --trace --ip-src 192.0.2.1 --dst-port 80
              $ mm-trace remove --trace --ip-src 192.0.2.1 --dst-port 80
Removed 1 tracer(s)
               $ mm-trace flush
              Removed 1 tracer(s)
ш.
\triangleleft
\alpha
      i p
```

ip コマンドは、ルーティング、デバイス、ポリシールーティング、トンネルを表示 したり、操作したりするために使用します。

詳細情報に関するメインページはこちらです: http://linux.die.net/man/8/ip インターフェースをリスト化します。

ip link show

名前空間をリスト化します。

ip netns list

名前空間の中で、インターフェースをリスト化します。

ip netns exec namespace ip link show

RAFT

DRAF.

DRAI

RAI \bigcirc

AF \simeq

DRA

 α

1

DRAFT

1

DRAFT

Т

第4章 ディレクトリーとファイル

目次

Cassandra	12
MidoNet Agent	12
MidoNet API	12
Quagga (BGPD)	12
ZooKeeper	12

このセクションは、よく使う設定とログファイルの概要を提供します。

ファイル名とパスは、使っているオペレーティングシステムと0penStackのディスト リビューションによって、微妙に異なりますので注意してください。

Cassandra

File	Туре
/etc/cassandra/conf/cassandra.yaml	CONF
/var/log/cassandra/cassandra.log	LOG

MidoNet Agent

File	Туре
/etc/midolman/midolman-akka.conf	CONF
/etc/midolman/midolman.conf	CONF
/etc/midolman/midolman-env.sh	CONF
/var/log/midolman/midolman.event.log	LOG
/var/log/midolman/midolman.log	LOG
/var/log/midolman/mm-trace.log	LOG
/var/log/midolman/upstart-stderr.log	LOG

MidoNet API

File	Туре
/usr/share/midonet-api/WEB-INF/web.xml	CONF
/var/log/tomcat/catalina.out	LOG
/var/log/tomcat/midonet-api.log	LOG

Quagga (BGPD)

File	Туре
/var/log/quagga/bgpd.log	LOG

ZooKeeper

File	Туре
/etc/zookeeper/zoo.cfg	CONF

DRAFT

I

File	Туре
/var/log/zookeeper/zookeeper.out	LOG

Τ

AFT \simeq

 \Box

RAI

I

 \triangleleft 2

1

RAI

 \triangleleft 2

1

RA

1

 α

1

 \vdash

DRA

1

DRA

1

 \forall α

Ι

このセクションは、共通プロセスを提供します。

使っているオペレーション・システとOpenStackディストリビューションによって、 名前とファイルパスが異なります。

プログラ	プロセス
Cassandra	java [] org. apache. cassandra. service. CassandraDaemon
MidoNet Agent	java […] org.midonet.midolman.Midolman
MidoNet Agent (Watchdog)	/usr/bin/python /usr/bin/wdog […] org.midonet.midolman.Midolman
MidoNet API (Tomcat)	java […] org.apache.catalina.startup.Bootstrap
ZooKeeper	java […] org.apache.zookeeper.server.quorum.QuorumPeerMain